

事業活動報告

事業所名 居宅生活支援部

1.2023年度 事業所方針

【グループホーム】

1. 地域の一員として自分らしいくらしを描き、いきいきとくらすことができるホームをめざします。
2. 支援者のスキルアップと働きやすい職場環境をめざします。
3. 亀岡福祉会ビジョン2025の実現に向けてとりくんでいきます。

【ショートステイ/日中一時】

1. 障害のある人とその家族が、より豊かに、そしてあたりまえに生きるためのお手伝いができるようにします。
2. 関係機関と連携し、“その人にとって”を第一に考え支援します。
3. 利用される方が、安心安全快適に過ごせるような環境づくりに努めます。
4. どんな障害の方も、しっかり受け止められる職員集団をめざします。

【ホームヘルプセンターゆめネット】

1. 障害のある人の「生活の質の向上」をめざします。
2. 「支援の質の向上」をめざし、多様なニーズに応じていける職員集団をめざします。
3. 地域の様々な事業所や行政と連携をしながら、地域福祉の向上をめざします。

2、利用者・職員状況

【グループホーム】

- ・メンバーの高齢化、障害の重度化、疾病など手厚い支援が必要なメンバーが増えてきました。あわせてご家族の高齢化が急速に進み、週末に自宅に帰省できないメンバーが増えてきています。週末日中の職員配置に苦労しています。
- ・職員の年齢層が高く、怪我や病気などで休職する人が増えていきます。安定したくらしを提供するためには、安定した人の確保が不可欠ですが、綱渡りの状況です。
- ・将来構想の中で、新ホームの建設や既存のホームの改築、修繕などの話があります。安心してくらしらせるように、普段から防災の取り組みにも力をいれていきます。
- ・現在、空き室が1室あります。将来構想とあわせて、入居者募集について考えていきます。

【ショートステイ/日中一時】

- ・入所施設に3名の利用者が入所となり利用終了。
- ・ショートステイ：法人内1名（20代）、地域の1名（10代）と契約。
- ・日中一時：法人内1名（40代）と契約。

【ホームヘルプセンターゆめネット】

- ・8名と契約。（身体（50代）（30代）、家事（30代）（50代）、行動援護（10代）、ガイドヘルプ（20代）（40代）、生活サポート（30代））
- ・コロナの分類が5類となり、ガイドヘルプの利用希望また利用再開が増えている。また新規の依頼（契約）も増えてきている。
- ・スキルアップ、資格取得の促進として強度行動障害支援者養成研修（基礎）に2名、同行援護従業者養成研修（一般過程）を受講。

3、2023年度 実践内容と成果

【グループホーム】

- ・ YKさん（61歳）は、両親と障害のある妹と4人家族です。1年前くらいからお父さんが体調不良で、自宅や病院で療養されるようになりました。そのころからYKさんは、グループホームで泊まれない日が増え、作業所にも通所できない日もありお母さんはとても困っておられました。YKさんなりに家族の変化に心を痛み、心配をしておられたのかもしれませんが。病気療養中のお父さんが亡くなられ、YKさんは、（月）（火）作業所→自宅へ、（水）作業所→グループホーム泊と決めて自分の暮らしを組み立て、見通しを持ってくらしておられます。そんな時、お母さんが体調不良で緊急入院になり、YKさんの見通しは崩れ不安な表情になっておられました。お母さんが退院されるまでは、週末もグループホーム泊になります。YKさんと高齢のお母さんの今後の暮らしについて早急に考えていかなければならないと思っています。
- ・ つばさ荘のNMさん（75歳）は、慢性の腎臓病で透析が近いと言われていています。コロナに罹患され、体調回復に時間がかかりましたが、デイサービス、コンサート、旅行等楽しみがたくさんあり、「若いころより、今がいいですわ～」と青春真っ只中です。
- ・ 菜のはなのNMさん（72歳）は、親しい人との別れを経験し悲しい思いをされました。健康には気を付けておられましたが、コロナに2回罹患されました。幸い重症化せず回復されましたが、自分の体と向き合いながら、できるだけ自分の力でやろうとされる姿はたくましいです。ひまわりのHYさん（72歳）は、お風呂とコーヒーが大好きです。最近ではめっきり手足が弱くなってこられましたが、お正月になると書初めをして、1年間がんばることを書にしたためておられます。菜のはなのYTさん（77歳）は、リウマチがあり治療をしておられます。おしゃれが好きでお買い物に行くことをとても楽しみにされています。たけのこのTFさん（74歳）は、休日は一人で散歩に出かけて気分転換しておられます。外出中に転倒されたこともあり心配しましたが、白内障の手術をしてからは、よく目が見えるようになり転倒などのリスクは少なくなりました。
- ・ 高齢期をいきいきとくらすには楽しみを見つけること、慣れ親しんだ場所で馴染みの人とのくらし、新しい環境に身をおくときはご本人の不安な気持ちにもしっかりと耳を傾けること、些細な体の変化に気が付き迅速に対応することなどが大切であると学びました。住み慣れた場所でくらし続けたい思いに伝えられるように、「それぞれのくらし」についてみんなで考え合い、その人の望むくらし方で一生が終えられたら、しあわせな人生だったと言えるのではないのでしょうか。

【ショートステイ／日中一時】

- ・ 圏域の相談支援事業所を通じて、「今すぐではないけれど利用したい」「家族の緊急時に備えて、利用できるところを増やしておきたい」等々、理由は様々ですが、ショートステイ・日中一時ともに新規利用希望者が複数ありました。しかしながら一事業所で全てのニーズに伝えていくことはできません。地域のニーズを把握し、また行政等へ実態をあげていき、地域全体で課題の解決につなげられたらと思います。
- ・ 亀岡市地域拠点事業の一員として会議に出席をし、多くの事業所との情報交流や共有を行い、行政へ緊急対応の難しさ等、現状を伝えてきました。

- ・消防署から指摘があった第三かめおか作業所1階のショート部屋の床の敷物を処分し、畳がある部分をフローリングに張り替えました。また、大型の家具や布団等、使っていない・使わない物を処分し、新しく家具などを新調し環境づくりにとりくみました。
- ・昨年度よりも利用者数、利用日数、利用時間は減少傾向にあります。減少した要因として“今まで毎週利用していた人が入所したため利用しなくなったこと”が大きな要因の一つにあります。また、新規利用者は増えていますが、職員不足のため、定期的に利用していただくことができず、数ヶ月に一度の利用や利用していただけない状況が続いていることが減少傾向につながっているのかもしれませんが。地域のニーズ、また利用者、利用日数、利用時間など、増やすためには場所や人の確保が必要だとあらためて考えさせられる2023年度でした。

【ホームヘルプセンターゆめネット】

- ・数十年利用されている60代女性の方は60歳を過ぎてからは体調の変化が顕著に表れ、体調を崩されることや入院をすることが増えてきました。数年をかけてお話することで、昨年より月1回の定期通院がスタートしました。ご本人に自覚症状がなくても、医療を通じて身体の状態を把握できることにより、早期発見ができ重症化にはつながっていません。医療とつながることができたことが大きな成果となっています。
- ・30代男性の方は5月末頃に誤嚥性肺炎による発熱から入院となり、今後も誤嚥性肺炎のリスクが高いため胃瘻造設とされました。胃瘻造設と聞き、当初今後の入浴支援は難しいと判断をしていましたが、ご本人、ご家族の今後の継続の希望もあり、退院後から入浴支援を再開しています。退院後も体調が安定しない日もありますが、ご本人、ご家族の望む生活の一部を支えています。
- ・緊急対応に应运えてきました。足の骨を骨折された50代女性の方の身体介護に約2ヶ月、週3日の支援に入ってきました。順調に快復をされ支援最終日にはご本人から「さみしいわ～」との言葉もあり、寂しさとともにその人の生活を支えてきたということを実感しました。
- ・30代女性Iさんは、秋ごろから入浴支援をスタートしました。現在は通院介助と支援の幅を広げています。支援の中で「車いすでも映画館で映画観れるんですか?」。ご本人との会話でありました。ご本人またご家族の選択肢が限られていることを改めて感じました。
- ・80代女性Wさんは昨年通院介助を一度利用されて以降、利用がありませんでした。今年2月に民生委員から「Wさんが困っておられます」と連絡が入りました。以前よりも視力が低下をされ、視野が狭くなっていることがわかりました。翌週から同行援護で買い物の支援をスタートしています。
- ・10代男児Kさんは放課後等デイサービスの利用がメインですが、家族以外の人との関りを増やす、家族の負担の軽減などの理由で行動援護の利用がスタートしました。初回はパニックになられる姿が見られましたが、徐々に穏やかに過ごされることが増えてきています。
- ・地域のニーズに応えるために、同行援護支援者養成研修、強度行動障害支援者養成研修への参加を促し、有資格者の人数が増えるように進めてきました。

4、来年度への課題とそれに対する取り組むべき実践内容

【グループホーム】

- ・グループホームでくらすメンバーは、中年期～高齢期のメンバーが大半です。家族との関係性でグループホームの生活が定着しなかった人も、親やご本人の疾病によりグルー

プホームでの生活が定着していったというケースが複数ありました。親も子もお互いに一人の人間として、親はケアラーでない自分の人生を送る。子は親から自立して自分らしく生きる。そんなことが1日も早く実現できる社会になることをめざしていきます。65歳問題、親なき後のくらしのこと等、これから直面する課題がたくさん見えてきました。一人ひとりのくらしをより豊かに丁寧に見ていこうと思うと、職員一人ひとりのスキルアップが不可欠です。積極的に学ぶ機会を持ち、会議に参加して意見を交流し合える職員集団づくりを来年度もめざしていきます。

- ・新型コロナウイルスが猛威をふるってから4年が経ち、少しずつコロナ前の取り組みができるようになってきました。先行きの見えない厳しい時代に私たちはどう立ち向かうのか。新しいことに踏み出すには勇気とエネルギーが必要ですが、メンバーを真ん中にご家族、職員が一致団結して切り開いていく2024年度にしていきたいと思えます。

【ショートステイ／日中一時】

- ・感染予防対策（手洗い、消毒、部屋の換気など）を引き続き、周知徹底していきます。
- ・安心、安全、快適に過ごせるように相談支援事業所、ご家族、日中事業所と連携をしていきます。
- ・安心、安全に過ごしていただけるよう環境づくりに努めます。
- ・利用される方のより良い支援につながるよう学び（他事業所の見学や交流など）を深めていきます。
- ・多くのニーズに応えるため、人財の確保を考えるとともに、法人全体での仕組みづくりを考えていくよう努めます。
- ・障害の重度化により医療的ケアが必要な利用者をどのように受け止めていくか。看護師が常駐していない中、ご家族や医療など関係機関と連携、相談しながらその人にとって第一に考え、より良い支援につながるよう考えていきます。
- ・亀岡市の地域生活支援拠点事業の一員としての役割を担っていきます。

【ホームヘルプセンターゆめネット】

- ・一人ひとりの多様な生活を支えるために、「傾聴と対話」を大切に支援に取り組みます。
- ・日々の支援で見えてきた地域の課題を行政に声をあげ、地域福祉の向上をめざします。
- ・地域の課題解決、ニーズに応えるため、「人の確保や仕組みづくり」を法人や人材確保PTと検討し、取り組みを進めていきます。
- ・将来の事業の発展、継続のために、他事業所との交流を行い、学び、活かす取り組みを進めていきます。